

Tokyo Kasei Press

学園新聞

第64号

学校法人 渡辺学園
発行 総務部総務課
〒173-8602 東京都板橋区加賀
1-18-1 電話(3961)5226
東京家政大学大学院
東京家政大学短期大学部
附属女子高等学校・附属女子中学校
附属みどりヶ丘幼稚園

主な内容

- 2014年頭所感 少子高齢化を担う 新設学部の発足 1面
- 新設学部開設 新たな段階へ踏み出す大きな一歩 1面
- 看護学部・子ども学部10/31付、設置認可(4/1開設) 2面
- 第53回緑苑祭 2面
- つながるアート 板橋アートキャンプ2013開催 造形表現学科 アートプロジェクト 2面
- 東京家政大学×FamilyMart 第2弾コラボ商品が発売!! 3面
- 楽しい春休みを過ごすために～休み中の落とし穴～ 3面
- 平成25年度附属女子高等学校卒業証書授与式の日程・場所の変更 4面
- 85周年記念耐震改修工事の実施(12/21～3/31学園食堂閉鎖) 4面

2014年頭所感

新設学部開設 新たな段階へ踏み出す大きな一歩

少子高齢化を担う 新設学部の発足

おめでとうございます。平成16年度狭山校舎活性化案策定プロジェクト会議から平成23年度狭山キャンパス将来計画策定委員会まで、実に10年と5つめの委員会です。歴代検討委員会委員長が現実のものとなり、早稲田大学の下がる思いです。携等種々長い検討の中、ずつと変わらず存続し続け



学長 木元 幸一

てきたのが看護系の構想でした。今回の看護学部看護学科は、いわば本学悲願の開業とも言うことができ、新たな段階へ踏み出す大きな一歩となります。一方、太平洋戦争後本学が青木誠四郎学長のもと、子どもの発達と要求に沿った理想の教育からスタートした現在の家政学部児童学科・児童教育学科・保育科は、今日、大変大きな成果と高い評価を得るに至って

2月末決定 第3回目 渡邊辰五郎賞
本学園は、平成23年度に創立130周年を迎えました。日本近代の黎明期である明治時代の偉大な教育家として評価されている渡邊辰五郎の偉業を讃え、後世に伝えるため、創立130周年を記念して「渡邊辰五郎賞」を創設しました。渡邊辰五郎賞は、本学の建学の精神である「自主自律」に相応しく、社会で活躍するとともに貴重な貢献をした卒業生を称えるものです。
*渡邊辰五郎賞(1名)
記念メダル及び副賞(30万円)
*渡邊辰五郎奨励賞(2名)
記念メダル及び副賞(10万円)
既に応募は、12月31日に終了し、現在、渡邊辰五郎賞選考委員会にて、選考を進めており、2月末日に決定します。詳細については、学園のHPをご覧ください。
(総務課内「渡邊辰五郎賞」事務局)



これまでの本学の教育は生活科学を中心として家庭科・保育者の養成を中心に発展してまいりました。今日の少子高齢化社会問題について高齢化社会が安心で安全な世界となるよ

移をみると、1970年には65歳以上の人口が全体の7%を超えた時、当時の国際連合の定義ではすでに「高齢化社会」に突入したと言われたものです。その後、40年たち、2010年には

山公園駅と入間市駅の2駅間の線路沿いに広がる素晴らしい立地条件にあり、新設される2学部は、我が国が取り組むべき課題として国家政策に取り上げられている領域に直接関わっている重要な人材育成分野で、これからの我が国が成熟し、真に豊かになるためには決して疎かにできない分野です。また、女性が主体的に活躍できる分野なので、文科科学省と厚生労働省の認可が必要のために、極めてハードルの高い学部の設置でしたが、東京家政大学の建学以来の教育理念は、卒業後の活躍も見据えての意義が不可欠と考え、敢えて産みの苦しみを乗り越えました。本学は、卒業時、卒業後もずつと支えていける教育機会を提供できる学園を目指しているのだと思



理事長 清水 司

うになるため、それなりの努力が必要ですが、本学には未だ高齢化社会に対する認識が浅く、高齢者を介護するといった視点での人材養成がなされていませんでした。我が国の高齢化の推移をみると、1970年には65歳以上の人口が全体の7%を超えた時、当時の国際連合の定義ではすでに「高齢化社会」に突入したと言われたものです。その後、40年たち、2010年には

平成25年5月に文科科学大臣に提出しました看護学部及び子ども学部の設置認可申請が受理され、10月31日付で、文科科学省より正式な設置の認可書が交付されました。これを受けて、狭山キャンパスに4月1日より、新設学部の開設となり、本学は4学部11学科を有する総合大学としての新しいページが開かれます。稲荷山公園駅改札口直ぐ近くに2学部が開設する本学狭山キャンパスは、入間市駅までの2駅間の線路沿いに広がる緑あふれる広大な素晴らしい環境のキャンパスです。本学入間市側には国道16号線に直通する馬頭坂線が昨年12月に開通し、特急の停車する入間市駅までは(駅への道はまだですが)、直ぐそばの至近距離となりました。看護学部は、看護師だけでなく努力すれば保健師、助産師の資格取得ができるという最大の利点があり、意欲の高い優秀な看護師に

看護学部・子ども学部
10月31日付、設置認可(4月1日開設)



10月26・27日

「第53回緑苑祭」開催

今回は台風の影響を受け、1日目は屋内企画の展示のみに縮小され、2日目は晴天に恵まれ通常通りの開催となりました。

今年のテーマは「そうだ、家政に行こう。」

「そうだ、家政に行こう。」(彩れ華清へと続く道) 学校に泊まり込み、日夜文化祭の準備を経て、活気ある学園祭を大成功に導いた第53回文化祭実行委員長山本奈々さんにお話を伺いました。



大3栄養学専攻 山本奈々さん

前回に引き続き実行委員長2期目ですが、どのような気持ちで望みましたか？

前回の反省点を踏まえた上で、一つひとつの仕事を引き継ぎたい気持ちで一杯でした。また、確認の回数が増やすことでミスも格段に減りました。やりがい、大変だったことを教えてください。

今回は、台風の影響が大きく、例年以上に臨機応変な対応が求められました。今までの経験が通用しないアクシデントも多々あり、様々な方にご迷惑をかけてしまいました。しかし、多くの方が協力くださったお陰で無事緑苑祭を終えることができました。感謝の気持ちで一杯です。

本部企画で人気の企画は？ 伊藤園さんの「日本茶講座」やダスキンさんの「お掃除教室」、フラワーアレンジメントは、家族連れでにぎわっていました。今回は

「アロマキャンドル作り」を新たな本部企画として組み込みました。好きな色、デザイン、香りを選べて世界に一つだけのキャンドルを作ることができました。芸能人の方は、誰が決めているのですか？

学生からのリクエストも元々、大学側・芸能人側の双方の事情を鑑みて決めています。ちなみに、シックレットゲストはごく一部の者が担当しており、私も誰なのか当日までわかりませんでした。

一言では言い表せませんが、一番の気付きは皆で協力することの大切さです。今回は特に仲間との協力が重要な場面が多く、私自身も皆に助けられました。実行委員長2期目ということ

もあり、今までよりも周りを見るのができたのだと思います。来年の実行委員に一言

文化祭実行委員は主に1・2年生が中心となって活動しています。不安はあってもありませんが、やる気さえあれば大丈夫です。「何事も明るく、楽しいのが一番！」をモットーに、頑張ってください。

山本さんの「お互い助け合い、皆が楽しめるように頑張ろう」と努力する姿が印象的でした。山本さんは1年生の頃から文化祭実行委員をしており、今回で3年目です。今までの経験が、参加人数延べ2000名を引っ張っていく原動力になっているのだと感じました。大4管士 石岡まどか

つながるアート 板橋アートキャンプ2013開催



広報用に学生スタッフが作成したDM

ニケーションを可能にするアートの力。テーマにも掲げた「アートでつながる」ことの魅力を各々の体験の中で実感したことでしょう。

主に3年生が企画運営を担ってやりたいプログラムを構想し、教員に協力をお願いしています。普段の教える教わるという一方的な関係からではなく、共に企画を練り上げていく中で学ぶことは多くあったはずですが、

8月、9・10日、板橋アートキャンプ2013が板橋キャンパスにて開催されました。アートキャンプとは、造形表現学科の時間外授業として学生が2日間集中的にアートを体験するプロジェクト学習です。本学科では学生の自主的なアート活動を推奨しており、現在各地で注目されている「アートプロジェクト」を学内に持ち込み、多くの学生に参加の機会を与えようと狙ったのが本企画です。普段は関わりにくい人々とのコミュニ

学生の「やりたい」からプログラムがスタートしますが、その全てを思いのままに実現できないのが通常の個人制作と異なる点です。全体の主旨を踏まえ、来場者を意識し、大学の制限を理解する。学生は様々なハードルを越えなければなりません。こうした他者との関わりの中で身に付けられるのが社会性です。ここには予想外の出会いもあります。使用箇所を検討する際、環境教育学科の片田真一先生と学内の絶滅危惧種「マヤラン」の保全区域について話し合う機会がありました。一見活動への制約が増えたようにみえますが、これを活かして両学科の学生が直接話し合う中



ライブペイントプログラムの即興ペイント



ライトアップされた夜のファイバープログラム

4年間頑張った学生記者 沢山触れることができた学園の魅力

平成22年春、家政学部栄養学科に入学した私は、これから始まる大学生活に希望を膨らませていました。そんなワクワクした気持ちで過ごしていた4月のある日、「学生記者募集！」のメールが、登録したヒューリッブから届きました。「私にできるだろうか？」と隣悩んだものの、「やってみよう」という気持ちが勝ち、すぐに返信。総務課との打合わせを経て、学生記者生活がスタートしました。学園新聞は、学園の今を伝える貴重な媒体。私は学生の視点から、その時々興味を持ったこと、学園について知りたいこと等を記事にまとめていきました。学生記者の大熊はるなさんは、「この活動をしなければ出会えなかったヒトやコトが沢山あります。石岡まどかさんは、「想いを込めてまとめた記事は就職活動でも役に立った」と、話しています。私自身は、学生記者をしたことで、学園の魅力に沢山触れることができ、ますます大学に愛着を持つことができました。大4管士 佐竹未希

TOKYO KASEI PRESS 学生記者3名 平成26年度 学生記者募集! 平成26年度学生記者を募集します。年3回発行(4・7・11月号)に向けて、取材・原稿作成・校正等が主な活動となります。興味、関心がある方は、総務課(百年記念館2階)織田まで。お待ちしております。



大4管士 佐竹未希 大4管士 大熊はるな 大4管士 石岡まどか

食リンピック活動 第8回食リンピック・出張食リンピック開催

食リンピックとは、毎年東京家政大学で行われている食育イベントです。また、学外での食育イベントにも積極的に開催しており、「食リンピックin○○○○」(開催地)として行っています。

五感(視覚・嗅覚・味覚・聴覚・触覚)を使った競技(ゲーム)を通じて食に興味関心を持ってもらうこと、大学と地域の繋がりをもち、親子・友達同士のコミュニケーションの向上を目的としています。 11月10日、第8回食リンピックが開催されました。16号館1階の教室と中体育館を使用し10種類の競技(ゲーム)を行いました。

触覚の競技「さわってつかんで」は、ボックスの中に入っている食べ物を当て



「これはなんだろう？」と、一生懸命な子ども達

認していました。 11月16日には、成増社会教育会館にて「いってみよう! やってみよう! 子育て記念日2013」という親の子育てを応援することを目的にしたイベントで食リンピックを開催しました。子どもも大人も一緒に楽しむことが出来る競技を3種類行いました。イベント開催中、何度も挑戦してくれた子ども達もいて、多くの方に楽しんでいただくことが出来ました。 大4管士 大熊はるな



「豆を運ぶのは難しいね!」と、集中する子ども達

池袋東武百貨店にて、9月19日〜10月2日の2週間にわたり、「東武の女子DON(井)」が開催されました。

この企画は、栄養学を学ぶ女子大学生が考案した女性向けの「井」を地下2階食品売場11店舗と協同で開発・販売するもので、本学を含む5大学が参加しました。

本学は「浅草今半」「まつおか」の2店舗を担当。「50kcal以下の美味し井」をテーマに、栄養バ



「まつおか」とコラボ! 「浅草今半」とコラボ!
「豆腐ととろろのふわふわ鶏つくね丼」 「トマトdeすきやきDon!

販売会を実施。開発に携わった学生達は手作りのうちわやポスターを使い、商品のPR活動を行いました。

開催前日の18日にはプレ販売会を実施。開発に携わった学生達は手作りのうちわやポスターを使い、商品のPR活動を行いました。



東武デパ地下 × 栄養学科女子大生
「東武の女子DON(井)」に参加



「染織の宝庫」と称されるインドネシア。この国の民族衣装は、数々の「織」と「染」の模様で彩られています。今回の企画展では、その中でも特に名高い、緋のイカットとロウ染のパティックを紹介しました。

展示品の大半は、インドネシア染織の研究・収集の



▲展示品解説の様子

第一人者である染織工房イカット主宰 渡辺万知子氏のコレクションをお借りしたものです。

渡辺氏には、「インドネシアの染織文化」というテーマで講演・展示品解説をしていただきました。島ごとに個性的な様式や模様、それを育んだ歴史的背景や伝説について、また収集時のエピソードなど、興味深いお話は尽きず、時間は瞬く間に過ぎていきました。

今回の企画展 平成26年の春は、染織品を中心に、日本の匠の優れた技を堪能できる展示を企画しています。どうぞお楽しみに!



▲イベントの様子

イベント「パティック布を使って小物をつくらう」にも、たくさんの方が参加され、パティックの美しさを、また違ったかたちで楽しんでいただけたようです。

地域連携協力推進センターは狭山校舎にありま

す。開かれた大学として地域のの方々を対象に、大学の専門性、特性を生かした講演会や公開講座、研修会を開催しています。

板橋校舎でも開催 講座内容に高い評価!

平成25年度も狭山市・入間市の教育委員会と共催事業等で連携を深める中、埼玉県及び両市と本学の共催で小学4〜6年生を対象に恒例の「子ども大学さやま」が開催されました。

今年度は狭山を飛び出し全5回の内2回を板橋校舎で開催し、講義の他キャンパスツアーと銘打って図書館や博物館の見学に興味津々の学生達でした。また大学生と一緒に学食での昼



木元学長と参加した学生達 (板橋 百周年記念館前にて)

	1限目	2限目	3限目
第1日 6月29日	入学式	命の絆 ～救急救命士を体験しよう～	
第2日 7月20日	東京家政大学板橋校舎 キャンパスツアー ～大学ってどんなところ?～	納豆ってこんなにすごい ～化粧水にも! 泥水浄化にも!～	
第3日 8月31日	どうして首は開かえるの? ～紙皿スピーカをつくってみよう～	博物館探検 ～ワークシートに挑戦 & 鉄道模型見学～	
第4日 9月21日	日本の宝もの ～子どもに伝えたい しきたり～	CADで学ぶ衣服の かたち ～CADって何?～	食品加工に挑戦! ～みんなで作ろう! バターとチーズ～
第5日 10月5日	星空をたのしもう! ～フラネタリウム～	3Dで立体宇宙を つくろう! & 知ろう! さわろう! いん石	修了式

食も学生には新鮮に映ったようです。また、納豆から化粧水を作る実験では、納豆の持つ威力に驚き、同じような物質を使つての更なる挑戦に胸を踊らせたようです。今回の参加希望者も多く、また、保護者にも毎年工夫を凝らした講座内容に高い評価を頂いています。

講義では学生ボランティアが大活躍し、今回も延べ

博物館

企画展

イカットとパティック
インドネシアの2大染織

好評のうちに終了



子ども大学
「さやま・いるま」

第3期修了



50人の学生達のサポートがありました。教員志望の方、教育委員会との子ども向け事業もいい経験になりました。平成26年度もぜひご協力をお願いします。

また、入学式では家政大マンドリンクラブ、修了式ではOGの緑窓マンドリンの演奏があり、おごそかな式を盛り上げ、来賓をはじめ保護者の方に毎年たいへん好評を得ています。

東京家政大学 × FamilyMart
第2弾コラボ商品が発売!!

昨年1月に共同開発されたスイーツが好評により、引き続き第2弾コラボ企画として、今回はお弁当・パスタ・サラダの3品を学生とファミリーマートが共同で商品開発。栄養学科・栄養科の学生56名から計88の企画案がだされ、試食検討会を重ねた結果、女子大らしく彩りにも気を配られた商品が完成しました。商品は10/25よりお弁当は12/2まで、パスタは11/25まで、サラダは11/21までの期間、関東と山梨、長野、静岡東部の約4,100店舗のファミリーマートで販売されました。

この3作品の商品パッケージ・販促物・ポスターのデザインは、大4造形の菊地美紗子さん、大3造形の高井恵里花さん、萬田藍子さんが担当。さらに初めての試みとして、店内放送の収録にチャレンジしたり、緑苑祭でPR活動を行いました。

1/2日分の緑黄色野菜が摂れるサラダ
大3栄養 川果蓮さん

298円(税込)

生パスタ(全粒粉入り)
豆乳きのこクリーム

大3栄養 中野亜美さん

450円(税込)

ジューシーチキンの
ゆず胡椒焼き弁当

大3栄養 名古屋美咲さん
大3栄養 松田香奈さん

498円(税込)

緑苑祭にて商品のPR活動

図書館はみなさんの学習をサポートする環境が整っています。その一つにレポート作成には欠かせないPCが充実!

1FのPC席は、9月からMS-Office対応になり、集中して学習できるスペースに変わりました。

2F多目的室は、館内利用のノートPCで発表の練習をしたり、ディスプレイが使える空間です。室内にはホワイトボードもあり、使いやすいよう自由に移動させて友達と活発に課題に取り組みすることが出来る場所です。

もちろん、PC利用だけでなく、資料の探し方に悩んだらいつでもカウンターとの相談係に声をおかけください。

1月の開館時間
月～金曜日 : 8:45～20:00
土曜日 : 9:00～18:30



PC利用の様子



発表の練習の様子

レポート作成なら絶対図書館!

卒業学年のみなさん
貸出中の図書はすべて3月17日(月)までに返却してください。

所属		貸出日	貸出冊数	返却期限日
在学年	大学・短大	1/23(木)～3/28(金)	5冊	4/15(火)
	大学院	1/23(木)～3/15(土)	10冊	
卒業学年	大学・短大	1/23(木)～3/17(月)	5冊	3/17(月)
	大学院		10冊	

春期休業期間中の貸出
春期休業期間中は、通常よりも長い期間本を借りることが出来ます。この機会にじっくり読書を楽しんで、4月から始まる新生活に向けてたくさんさんの知識を得ましょう。

『楽しい春休みを過ごすために
～休み中の落とし穴～』

後期も終わりに近づき、テストや課題などに追われる毎日でも少し。春休みは忙しかった日々から解放され、体と心身をメンテナンスして、新年度を迎えたいものです。

長期休暇中は生活リズムが乱れやすく、体や心身の調子を崩してしまうことがあります。☆就寝・起床時間が日によって大きく変わらないように気をつけ、睡眠を十分にとるようにしましょう。

☆バランスのいい食事をとるよう心がけましょう。

☆ストレスに対処する方法を身につけましょう。

例えば… 趣味など好きな事をする時間を作る/外に出かける
深呼吸する(腹式呼吸)/軽いストレッチや運動をする
友人・家族等困った時に頼れる人を見つける

また、長期休暇ではさまざまな人に出会う機会が増えると思いますが、以下のことには気をつけましょう。

◎SNS等インターネットで知り合った人に、安易に個人情報(画像含む)を伝えたり直接会わないようにしましょう。

◎デートDVやストーカーにはくれぐれも気をつけて、心配な時はまず家族や身近な人に相談しましょう。



第7期 白藤プロジェクト
東京都食育フェアに
初の参加!!

10月12日、13日、代々木公園ケヤキ並木通りにて行われた、東京都食育フェアに白藤プロジェクトが初参加しました。

「食」を楽しみながら食育への関心を深めてもらうことを目的としたイベントで、私達は、今回一つひとつ手作りをした『食育カルタ』を食育の教材としました。50個の食材のカードを並べ、その食材に関するヒントを読み上げていき、どの食材についての説明なのかを当ててもらおうと簡単なようでも大人でも難しい、豆知識にもなるようなヒントをもとにしたこの食育ゲームは、子どもから大人まで、多くの方に楽しんでもらう



親子で「食育カルタ」に参加

ことができました。また、現在は埼玉県の秩父にて、農家の方のご協力のもと、キヌヒカリや、古代米である緑米を育てています。ただ、お米を育てるだけでなく、最後はどのような形で消費していくのか、そこまでが稲作の勉強でもあります。今後、収穫した米を米粉にし、小麦の代用としてアレルギー対応のお菓子を企業と共同開発していくことも、活動のひとつとして考えています。

幼稚園

10月26日緑苑祭にて、幼稚園では「あきまつり」が開催されました。「あきまつり」は、保護者の皆さんによる企画運営の行事で、いつもとは一味違う幼稚園の空間に子ども達も朝からワクワク。台風接近で開催が危ぶまれましたが、当日は雨模様だったものの無事に開催することができました。

各保育室は消しゴムスタンプでのバッグ作りや和紙のミニランプシェード作り、親子で楽しむモグラたたき、魚釣りなどそれぞれ



お母さんと一緒にモグラたたきに夢中!

に楽しいコーナーができ、お父さんやお母さんと一緒に夢中になって遊んだり、作ったりする子ども達のこぼれんばかりの笑顔が印象的でした。遊戯室ではかわいもぐらのペープサート劇を鑑賞しました。保護者の方々がそれぞれの得意分野を活かした企画には毎年脱帽です。

「コースファイナル」
渡辺学園在学生特待生奨学金授与式開催

本学創立130周年を記念して創設された渡辺学園在学生特待生奨学金の授与式が7月3日に行われました。この奨学金制度は学業成績、人物等について極めて優れた学生を選考・決定するもので、奨学生は後期授業料が免除となります。今年度は大学46名、短大3名の合計49名が採用されました。授与式では、学長より奨学生に採用通知が手渡されたのち、理事長、学長より、学生代表として各種学園運営に協力いただいた



木元学長より採用通知の授与

いたの挨拶がありました。スケットの機能性・物性の評価」広島県立庄原実業高等学校 平田英美さん、藤井菜々美さん

今年度はたくさんの方の顧問の先生方にも参加して頂き、前期の活動を通しての情報交換及びワークシートのテーマについて話し合い、班ごとに発表を行いました。2月7日には、1年間の活動を通しての反省及び次年度の活動により活かすための成果発表会が開催される予定です。

「生活科学をテーマとする研究・作品コンクール」にて
受賞者決定
生活科学研究所では、毎年「生活をテーマとする研究・作品コンクール」を行っています。全国の高校生部門、本学の大学生・短大生部門で募集を行い、今年度は17校の高校より33作品の応募があり、運営委員会による審査の結果、次のように決定しました。

加藤准教授に全国栄養士養成施設協会会長表彰
11月3日、加藤和子准教授(栄養学科)は、栄養士の養成に貢献した功績を顕彰して、(社)全国栄養士養成施設協会会長より表彰状が贈られました。

加藤准教授に全国栄養士養成施設協会会長表彰
11月3日、加藤和子准教授(栄養学科)は、栄養士の養成に貢献した功績を顕彰して、(社)全国栄養士養成施設協会会長より表彰状が贈られました。

板橋校舎防災訓練実施
10月10日、大学・短大教職員、学生等を対象として、地震による火災発生を想定した通報、消火、救出、救助の避難訓練及び消防署指導による実技訓練が行われました。避難場所は中高グラウンドとなり、多くの先生方、学生達が参加されました。

食意欲の向上を目指して!

食ラボは、学生の食に対する意識の向上、楽しいランチの提供を目指して現在約20名のメンバーで活動しています。

最近の活動としては、学食・ルーチェ・ラウンジに卓上メモを設置し学生の意識の向上を図り、また、アンケートを回収し学生の意見をまとめて活動に取り入れていきます。また、新たな取り組みとしてアレルギーマップの作成を行っています。現段階ではアレルギーに対応して



学生有志団体20名が活動(中央:笹井教育・学生支援センター所長)

いる飲食店の情報を集める活動を行っており、今後はその情報をもとにホームページを作成し情報発信していく予定です。

【優秀賞】「食感の喜び」
東京大学教育学部附属中等教育学校 片岡彩葉さん
【優秀賞】「果肉入り米粉ピ



顧問の先生と一緒に情報交換(16号館 Luce)

85周年記念館前広場では、消防署の指導の下、消火器による消火訓練、応急救護訓練、起震車・煙体験ハウス等の実技訓練が実施されました。10月末に開催の学園祭に向けて、参加団体の学生達の積極的な参加が目立ち、熱心に耳を傾け、真剣に体験に臨んでいました。

中学校・高等学校

「防犯訓練」実施

10月28日、高校生と高校教職員を対象に防犯訓練を行いました。

附属中学校高等学校では、安全対応能力向上の取り組みとして、防災訓練を行っています。これに加え今年度は様々な危害を想定した総合的な危機管理体制を整備するため、防犯訓練を実施しました。

学園の警備を担当しているテイケイ株式会社より派遣された2名と学園常駐警備員2名、計4名の警備専門講師による講義と実技を合わせ、



I 不審者のカテゴリーについて
II 安全を確保する
III 生徒の安全確保について
IV 通報要領について
以上4つのプログラムにそって約40分間の訓練となりました。

85周年記念館耐震改修工事の実施
(12/21 ~ 3/31 学園食堂閉鎖)

東日本大震災では格別の被害を受けることとなった85周年記念館でしたが、新耐震基準に照らして平成24年度に耐震診断を実施しました。その結果、大きな地震に対して備えを必要とする建物であることが判りました。学園では、応急対応を実施するとともに、昨年12月から5月までの間、耐震改修工事を実施しています。皆様にはご不便をおかけすることとなりますがご理解、ご協力のほどお願い致します。

この工事により、12月21日~3月31日まで、学園食堂が閉鎖となります。その間、1月10日~29日の期間中、お弁当販売個数を増やして販売及びルーチェの食数の増加等の対応をすることとなりました。

詳細につきましては、掲示にてお知らせ致しますので、ご確認ください。

節電継続にご協力を!

東日本大震災を契機とした法律に基づく電気の使用制限終了後も、学園として節電に継続して取り組むことを決定し、電力需要の大きくなる冬季及び夏季において関係各位のご理解、ご協力のもと、より安全で効果的な節電に継続して取り組むことをお願いしてまいりました。